

とかげの可愛い嘘(とかげ／Love Phobia)

2008(平成20)年3月16日鑑賞〈ホクテンザ1〉

★★★★



監督＝カン・ジウン／出演＝カン・ヘジョン／チョ・スンウ／カン・シニル／チョン・ソンファ／イ・ジェヨン／パク・コンテ／ビョン・ジョヨン（エスピーオー配給／2006年韓国映画／117分）

特集

熱狂的ブームの去った今こそ真価を問う！

……黄色いカッパによる重装備とポケットのとかげは一体何のため……？
男の純情を貫くジョガンの前から再三アリが蒸発するのは一体なぜ……？
可愛いウソとは一体ナニ……？ カン・ヘジョンの、ほんわかとした雰囲気
がグッド！ 真面目に考えるとバカバカしいかもしれないが、私はこんな映画大好き！

タイトルの意味をしっかりと！

この映画は原題が『とかげ』で英題が『Love Phobia』（phobiaとは恐怖、恐怖症のこと）、そして邦題が『とかげの可愛い嘘』。普通、は虫類のとかげは気味悪いものの代表（？）だが、なぜ少女アリ（ビョン・ジョヨン）は黄色いカッパのポケットの中に1匹のとかげを忍ばせているの？

映画の冒頭、丸っこい顔のかわいい女の子が、雨も降っていないのに黄色のカッパを着てお寺から出てくるが、この少女がアリ。アリはなぜいつもこんなカッパを着ているの……？

そんなアリとたまたま学校へ行く途中出会った少年ジョガン（パク・コンテ）は、彼女を見た途端ビビビと電気が走ったが、教室に入ると何とアリは今日学校へやってきた転校生。転校のあいさつの中でアリは「私に触れる人は呪いがうつるからね」と大胆な発言をしたが、どうもそれは冗談ではなさそう。そんな、黄色いカッパと小さなとかげがこの映画のポイントだからタイトルの意味をしっかりと。



© 2006 CINEMA SERVICE CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

最初の蒸発は……？

この映画の中で、アリは計3回ジョガンの前から蒸発し（行方不明？）、また3度現れるが、それは一体なぜ……？ 奇妙な発言をしたア리를 クラスメートたちは怖がったが、ジョガンだけはアリに触ることは避けているものの、唯一人だけ仲良しとなり、2人はいつも一緒に遊んでいた。

ところが、ある日アリのポケットから逃げ出したとかげを追って、ジョガンが田んぼの中を泥だらけになりながら捜し回っていたところ、夕立に遭ってずぶ濡れになってしまったから大変。1つの黄色いカップを互いの身体にかけながら雨宿りをしていた時、はじめて2人は触れ合ってしまったが、何とその翌日ジョガンは麻疹にかかって学校を休むことに。なるほど、アリが最初の日に宣言していたことはひょっとして本当……？ そんな風に考えながらジョガンが学校へ復帰するとアリは既に蒸発しており、その後10年の歳月が流れることに。

高2となった2人の再会は……？

10年を経て今はジョガン（チョ・スンウ）もアリ（カン・ヘジョン）も高校2年生。そんな時、アリが突然僧侶であるソジョンおじさん（イ・ジェヨン）のお寺に戻ってきた。それを聞いたジョガンは、大学受験のための勉強を名目として、寿司職人の父

親（カン・シニル）の了解を得てこのお寺で住み込み合宿をすることに。そこで2人は楽しい時間を共有するが、さて勉強の成果は……？

明日出発しなければならないというアリの大好物がお寿司であると知ったジョガンは、父親に頼んで上等のお寿司をアリにプレゼント。すると、それがいたく気に入ったとみえて、ジョガンはアリからお礼のキスを受けることに。これにはジョガンは大感激だが、何とこれによってジョガンは……？ そしてアリは2度目の蒸発を……。

社会人になってもなおジョガンは……？

ジョガンが小学生の時アリとすれ違ったのは、ジョガンが父親の運転する自転車のうしろの座席に座り、一緒に歌を歌っていた時。その歌のタイトルはわからないが、その歌詞は「男女の恋」と「男の純情」をテーマにしたもの。そこでジョガンが父親にした質問は「純情ってナニ？」というものだったが、その回答は、男が一途に1人の女を愛すること。なるほど、そりゃ名回答。

そんな父親の言葉をジョガンがずっと覚えていたわけではないだろうが、今や銀行員となったジョガンは他の女には目もくれず、アリへの想いひと筋。これぞまさに男の純情！ そんなジョガンの前に8年ぶりにアリが登場したから、ジョガンも私もビックリ。仕事が終わるまで待つというアリの姿が一瞬でも見えなくなると不安になってしまうジョガンが、アリの足をイスにくくりつける姿をみていると、ホントに「お前は男の純情そのもの」とつい同情。

そんな形でやっと再会できたのに、アリはまたすぐにアメリカに出発しなければならないとのこと。ホンマかいな？ 空港まで見送りにきたジョガンに対して、アリはこの線を越えてはダメと宣言してジョガンの前から姿を消していった。この3度目の別れは蒸発ではないが、以降会うことができないのはほぼ確実……？

後半明らかになる驚愕の事実 その1

この映画の前半は、仲良くなっていくアリとジョガンの恋模様と再三消えていくアリに対して示すジョガンの男の純情をユーモラスに描いていくが、後半は一転して2つの驚愕の事実が。その第1は、誰にも知られたくないアリの過去。アリには両親がおらず、叔父であるソジョン僧侶の下で育てられたらしいが、それはなぜ……？ これは2006年の映画だから、もうネタをばらしてもいいだろう。



DVD 発売中、価格：¥5,040(税込)、販売元：エスピーオー

アリが両親を失ったのは、車の中でアリがはしゃいでいたことが原因で車がトラックと正面衝突したため。またその事故で一命を取り留めたアリが小学生の時から黄色いカッパを着て、そのポケットにとかげを忍ばせていたのは、自分がエイズに感染したことを知り、自分に触れると感染すると聞かされたアリが感染を防止しようとしたためというから、えらくシリアスなお話だ。

小学生の時からジョガンと会うたびに話していた温泉の話や UFO の話はもちろんウソ。また、NASA（アメリカ航空宇宙局）に誘拐された話や自分は宇宙人だという話もちろんウソ。しかして、アリがそんなウソ話をくり返しジョガンにしていたのは、ジョガンの前から姿を消すために、やむなくついた悲しいウソ……。

後半明らかになる驚愕の事実 その2

次に明らかになるのは、イ・アリの本名はキム・ウンジョンだということ。ある日交通事故で入院した銀行の先輩ジュンチョル（チョン・ソンファ）をジョガンが見舞いにいった時、後ろ姿がアリとそっくりな女性を見かけ、その後を追っかけたが、看護師から「あの人はキム・ウンジョンさんですよ」と言われて、他人のそら似かとあきらめていたが、すると……？

韓国映画でも邦画でも、悲恋モノに病気はつきものだが、この映画がよくできているのは、ギリギリまでアリの病気をジョガンにも観客にも隠し続けること。しかし今や、アリがアメリカに戻ったという話が真っ赤なウソであることはバレバレ。そんな

中、それまで絶対にアリの行方について口を割らなかったソジョン僧侶に対してジョガンがとった行動は、文字どおり決死のもの。さあ、ここから始まるアリの病気を前提とした、アリとジョガンの真のラブストーリーの展開模様は……？

ウソでもここまで信じれば……

今や余命いくばくもないと覚っているアリがジョガンに対して語る最後のお願いは、「私が宇宙船に乗る時は笑顔で見送ってね」ということ。しかし、これに対してジョガンは「イヤだ。僕も一緒に宇宙船に乗る」とはじめて抵抗を……。ちなみに、ジョガンが銀行に就職したのは、アリが「将来銀行員と結婚して一緒に銀行からお金を強奪し、ロシアからロケットを買いとって宇宙へ帰る」と話していたのを信じたため(?) だから、男の純情とは恐ろしい……。

宇宙船が地球上に到着するために必要なのは宇宙船の基地、すなわちミステリーサークル……。今や死の淵をさまよい意識を失ってしまったアリを救い、一緒に宇宙船に乗るべくジョガンがとった次の行動は、そのミステリーサークルづくり。ウソでもここまで信じれば大したものだ。

そして、やっとミステリーサークルが完成した頃、奇跡的にアリの意識が回復したからビックリ。そんなアリを無理矢理ミステリーサークルまで連れ出したジョガンだったが、さあホントに宇宙船は現れるのだろうか……。そして、無事2人はその宇宙船に乗ることができるのだろうか……。そんなお楽しみは、あなた自身の目で。

2008(平成20)年3月20日記

韓国映画界の行方

能天気で平和主義一辺倒のニッポン国と違い、南北問題を抱える韓国では映画製作をめぐっても何かと「政治色」が強い。ちなみに、『オアシス』(02年)から『シークレット・サンシャイン』までイ・チャンドン監督に5年間も空白期間があったのは、03年から盧武鉉政権下で文化観光部長官を務めたため。ちなみに、李明博政権下では、俳優で中央大学演劇映画科教授のユ・インチョンがその跡を継いだ。

映画関係者は02年の大統領選挙では盧武鉉支持が多かったが、07年12月19日の選挙では、韓国大衆文化芸術家福祉会理事長が「李明博候補支持宣言」を発表しようとして、多くの俳優が反発したらしい。そんな韓国だから、1979年の朴正熙大統領暗殺を描いた『ユゴ 大統領有故』(06年)や、1980年の光州事件を描いた『光州5・18』(07年)が人気を呼んだのは当然。また、BSE騒動を契機とした「ろうそくデモ」の拡大によって、あれほど支持率が高かった李明博人気が急落したり、日本が中学校の教科書に「竹島」を書こうとするとたちまち反日感情に火がつき、竹島周辺に軍艦を派遣したり(?)と、韓国人はすぐに政治行動に走りやすい。

他方、「韓流ブーム」は過去のもの

となり、ここ数年韓国映画界は不振にあえいでいる。それは①観客動員数の減少と興行収入の減少、②映画製作事業の縮小・廃止と製作本数の減少、③韓国映画への投資の冷え込みと外国映画への投資ファンドの拡大、④1本あたりの輸出金額の下落と輸出総額の減少、⑤洋画に席卷される韓国映画等の現象に如実に表れている。韓国には韓国映画振興委員会(KOFIC)があるが、その委員長が任期満了前の08年3月に辞任したのはそんな責任をとったもの？ 韓国映画の多様性確保と海外市場開拓に取り組んできたKOFICが、08年の事業計画として最も力を入れるのは、投資環境と映像コンテンツ二次利用市場の流通環境の改善らしい。さて、韓国映画界は現在の苦境を乗り越えることができるだろうか？

ちなみに、08年上半期、邦画は元気で洋画は不振。すると、邦画は完全に復活！ いやいや、私はそうは思わない。なぜなら、「日本映画崩壊 邦画バブルはこうして終わる」と斉藤守彦氏が警鐘を鳴らしているとおりだと、私も思うから。

2008(平成20)年8月6日